

語り手 友松会磯子支部 桐生 一 (昭和 10 年 神師卒)  
聞き手 黒川鈴谷 (昭和 35 年 国大卒)



師範時代の桐生 一さん

友松会磯子支部の最年長の会員は、洋光台にお住まいの桐生 一さん(98 歳)です。昨年初めてお訪ねしたときに、師範の卒業アルバム(昭和 10 年)をお借りしてきました。戦前の師範学校の生活がうかがわれるそのアルバムをととも興味深く拝見したのですが、昨年末にそのアルバムをお返ししに行ったとき、アルバムの写真についていろいろとお聞きしました。以下はその記録です。 (2013.3 記録)

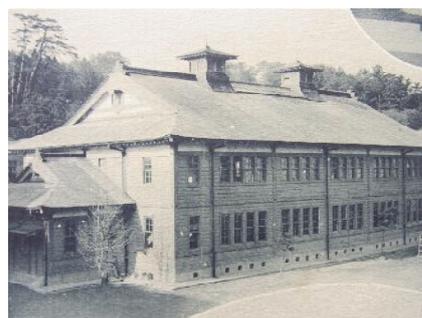
- 黒 川 大切なアルバムを長い間お借りして有難う御座いました。何しろ先生が師範を卒業された昭和 10 年は私が生まれた翌年で、その頃の師範の生徒はこんな生活をしてたのかととても興味を惹かれました。ただ残念ながら写真は見ることは出来ませんが語ってはくれないので、アルバムを拝見しながらこれはどうなんだろうなど思うことがありました。今日は先生にそれらのことをお伺いしたいのですが。
- 桐 生 いいですよ。どうぞ聞いてください。
- 黒 川 このアルバムには昭和十年三月とありますが、これは師範を卒業された時ですね。すると入学されたのは、昭和何年ですか。
- 桐 生 私は昭和 4 年に高等小学校を卒業し、14 歳で師範に入学しました。師範の課程は 5 年ですから本当は昭和 9 年の 3 月に卒業なのですが、在学中に病気をして一年遅れたので 10 年 3 月に 20 歳で卒業したのです。当時は六年制の尋常小学校の上に二年制の高等小学校がありました。義務教育は尋常小学校までです。
- 黒 川 すると先生は高小卒業後、師範の予科に入られたのですね。
- 桐 生 いや、予科が出来たのはもう少し後の専門学校になってからでしょう。私たちの頃には予科はありませんでした。
- 黒 川 そうですか。師範の制度は時代によって変わっているので分かりにくいのですが時代によっては予科があり、予科が終って本科に進んでから一般の中学から進学した生徒と一緒にいると思っていたのですが。
- 桐 生 私たちの頃にも、一般の中学を卒業してから師範に入学する人はいましたよ。そう言う人は二部と言って、私たちのように高小卒で入学して五年間在学するものは一部と言っていました。二部の生徒の在学期間は最初一年でしたが、私たちの頃には二年でした。
- 黒 川 私の父親は明治 35 年の生まれで、この洋光台の近くの農家の出身なのですが、その頃は尋常小学校を卒業して旧制の中学に進学出来る者は、村の中で一人か二人と言う状態で、高等小学校に進むのも大変だったそうです。聞くところによると村の中で、貧しいけれども優秀な児童には、小学校の担任が勧めて給費制で学



神奈川県師範学校校舎(後の国大学芸学部)

費がかからない師範学校へ進学させるということがあったということですが。

桐生 確かにそう言う例もあったと思います。ただ師範は給費制といっても、全く費用が要らないというわけではありません。たしかに寄宿舎に住んで食費も授業料も要らないのですが、それは衣食住のうちの食と住であって、衣の方つまり制服とかシャツや下着などは自分で買うのです。また学用品や参考書を買ったり、その他の必要品を買う多少の小遣いは必要です。だから給費制といっても、なにがしかのお金は必要なのです。



師範学校講堂

黒川 成程、考えてみればその通りですね。

桐生 ですから先ほどの貧しい家の子を、小学校の担任が勧めて師範へ進学させた場合、その先生が後々まで参考書とか制服とか必要な費用の面倒をみてあげたという話は聞いたことがあります。そうでなければ村の有力者が面倒をみるということもあったでしょう。そういうことが無ければ、小作人とか水呑百姓の子が進学するのは、師範でも無理なのです。

黒川 そんな事情は、実際に当時経験した人でないと分かりませんね。

桐生 村の中でもごく恵まれた家の子は、旧制の中等学校から更に上の高等学校や大学に進学していわゆるエリートになるのです。師範に進むのは、そこまではいかなけれど、でもそんなに下の方でもないという家庭の子弟です。いわば真ん中くらいの階層ですよ。ただ当時は長子相続制ですから、村の中でも上のほうの地主層の長男が師範へ進み先生となって、村に戻ってくるという例もありました。

黒川 成程、いろいろな事情があるのですね。

桐生 でも村の真ん中くらいでも、師範を卒業して村に帰ってくれば、それなりに大したものでしたよ。私が師範に入った昭和4年は日本中が酷い不況で、大学まで出ても就職がないという時代でした。でも師範を出れば就職は100パーセント保障されます。しかも今のように民間の会社でも年金が貰える時代と違って、当時は「恩給」と言っていた年金が貰えるのは軍人とか官公吏に限られていました。だから先生は当然、将来恩給が貰えるのですね。また当時の田舎の村では、村長と郵便局長と小学校の校長が村の三役で、村の人たちから敬意を払われました。ですから若い小学校の先生は婿さんの候補者として、引く手あまたでしたよ。

黒川 そうですか。それでは師範学校へ志願する者も多かったでしょうね。

桐生 そうです。かなり多かったですよ。私のときで競争率は六倍くらいだったかな。私の場合は、優秀な同級生が中学へ進学してしまった為と思うのですが、高等科に行ったら成績がトップクラスになってしまったんですね。そこで担任の先生が師範への進学を勧めてくれたのです。それで受験したらうまく合格しました。私が合格したので父親は鼻高々でしたよ。



校舎の背後にあった寄宿舎

黒川 そのときすでに、お父さんに親孝行が出来たのですね。ところで師範出身の他の方から伺ったのですが、中学から来た二部の人と師範生え抜きの一部の人とお互

いにとても仲が悪くて、師範の先生方が困った  
と言う話を聞いたのですが、先生の在学中にも  
そんなことがあったのですか。

桐 生 一部にしても二部にしてもお互いに対抗意識は  
ありましたが、それが表面に出るようなことは  
ありませんでした。私たち一部の生徒は 200 人  
くらいで二部の者は 80 人くらいですから、寄  
宿舎に入っても二部生は各部屋一人くらいです  
し、また二部の人は一部生のほとんどの者より  
年齢も上でその分だけ大人ですから、そんなに  
目に見えるような対立にはなりませんでした。



全校生徒による朝礼

黒 川 アルバムを拝見すると、舎監の先生が 8 人と生徒の寮長が 8 人の写真がありますが、  
と言うことは寄宿舍は 8 寮あったということですか。

桐 生 そうですね。6 寮だったと思っていたのですが、これで見ると 8 寮あったみたい  
だね。

黒 川 学友会幹事と言う生徒も 4 名いますね。生徒のうちで誰をこういう役職にするか  
は、先生が決めて任命するのでしょうか。

桐 生 そうですね。最上級生の中から成績の良い者を先生が選びます。

黒 川 その他に、いろいろな委員がありますね。購買委員、衛生委員、  
図書委員、炊事委員それからラッパ委員などと言うのもありま  
すね。これらの委員にはその仕事をやりたい者が立候補すると  
か、或いは生徒が互選するとかして決めたのですか。



桐 生 いや、全て先生による任命制です。ただラッパ委員だけは希望  
者がなります。

黒 川 他の委員は名前から仕事の内容がだいたい分かりますが、ラッ  
パ委員と言うのは何ををするのですか。

桐 生 戦前の時代ですから、師範学校では軍隊と同様に起床・就寝・食事など生活の全  
てでラッパを合図に行動しました。そのラッパを吹くのがラッパ委員です。実は  
私もラッパ委員を志願しようかと思ったのですが、止めました。というのは起床  
ラッパを吹くときは、他の者より早く起きなければなりません。それは大変だ  
と思って止めてしまいました。

黒 川 炊事委員はどんな仕事をするのですか。食事を作るなどの作業もするのですか。

桐 生 いや、そういう作業はしません。炊事委員の仕事は献立を作ることだけです。食  
事づくりの作業はそれ専門の作業員がいて、その人達がやります。作業員は全部  
男の人です。女の作業員はいません。だいたい師範  
学校は男の世界ですから、校内に女の人はいないの  
です。ただ便所の汲み取りに、ずっと年取った女性  
の作業員が来たとのことですが、この人も生徒たち  
が授業中に来て作業しました。だから生徒は誰もこ  
の人を見ていません。そのくらい女性禁制の世界な  
のですね。まあ、兵営なみですね。



全校生徒揃って食堂で食事

黒 川 食堂で食事をしている写真がありますが、このときの  
席は決まっているのですか。食事の量や質はどうでしたか。

桐 生 どの席でも良いというわけではなく、寄宿舍の部屋ごとに決まった席に着きます。

食事の量は十分でしたが、味は問題でしたね。



娯楽室でのマージャン

黒川 アルバムの中に「預金部」という写真がありますね。これは何ですか。

桐生 生徒は各自が必要な小遣いを家から貰っています。それを手元に置いておくと間違いのもとですから、当座必要のない金額を預けておくのが預金部です。写真にあるように先生の監督の下で、係りの生徒が窓口業務をやりました。

黒川 「娯楽」というタイトルのページを見ると、碁・将棋・トランプや歌留多取りと並んでマージャンをやっていますね。当時の軍隊ではマージャンは

禁止されていましたが、師範ではやってもよかったですか。

桐生 マージャンが禁止されたのは、賭博性が強いからでしょうね。師範の生徒は賭けに使う金など持っていないので、単純なゲームとみなされて禁止されなかったのでしょう。私は当時はマージャンをやらなかったので詳しくは知りませんが、このマージャンパイは器用な生徒の誰かが、木を削って作ったと聞いています。

黒川 戦前のことなので、「教練」というタイトルのページもありますね。これは学校の外の何処かの陸軍の演習地での写真ですか。

桐生 当時の師範学校では、教練が重視されました。学校職員の写真にも配属将校だった何人かの軍人の写真が載っています。校内での教練の時間のほかに、陸軍の演習地や兵営に出かけての訓練もありました。この写真は富士の裾野辺りの演習地に泊りがけで行ったときの写真ですね。ただ私は病気をしたので、この演習地の幕営には参加していません。



教練演習地での幕営

黒川 師範は学校ですから、旧制中学的な一般の学科の学習があるのは当たり前ですが、その他にカンバスに絵を描いたり、バケツの製作をしたりと実技的な学習もしていますね。あと興味を引かれたのは、農業と商業の学習があったことです。

桐生 農業と商業は選択制で、どちらか一つを選ぶことになっていました。自分は将来農村地帯の学校に勤務したいと思うものは農業を選択し、横浜などの都会の学校に勤めたいと思うものは商業を選びました。

黒川 サークル活動の写真もありますが、剣道部や柔道部がありますね。でも剣道や柔道は正課の中にあっただけではありませんか。



神奈川師範蹴球部(昭和9年度)

桐生 剣道と柔道は正課にあり、どちらか一方を選択することになっていました。私は柔道を選びましたが。

黒川 するとこの写真は正課の柔道や剣道でなく、課外活動で選んだものなのですね。先生は何をなさったのですか。

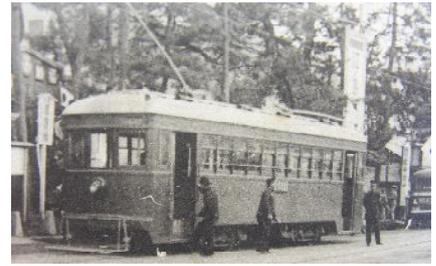
桐生 私は蹴球部に入りました。今の言葉ではサッカー部ですね。でもこのアルバムの蹴球部の写真には、私は写っていません。

黒川 そう言えば人数が少ないですね。なぜ写らなかったのですか。

桐生 実は此の写真を撮るときに、私は外出して長谷の焼き芋やに焼き芋を買いに行っていたのです。後で写真を撮ったことを聞いたのですが、まあいいやと思ってそのままになってしまったのです。

黒川 何というか暢気といえはのんきな話ですね。だいたい何で長谷まで焼き芋を買いに行ったのですか。

桐生 いや、その長谷の焼き芋やには、美人で評判の娘がいてね。焼き芋が目当てと言うより、その娘さんに会うのが目当てで行くのですよ。なにしろ師範というのは男社会で殺風景だから、若い女性に憧れたんだね。



当時の江ノ電。二の鳥居の近くに始発の停留所があった

黒川 でも雪ノ下の師範から長谷まではかなり遠いでしょう。江ノ電にでも乗ったのですか。当時は二の鳥居の傍から出ていましたね。桐生 電車なんか乗りませんよ。乗れば電車賃がかかるからね。いつも歩きでした。

黒川 昔は今のようにバスが発達していなかったし、ちょっとした距離だったら歩くのが普通でしたね。それにしても、焼き芋より娘さんが目当てとは驚きましたね。

桐生 長谷の焼き芋やの他にも、八幡様の三の鳥居の傍に時計屋があつてね。そこにも綺麗な娘さんがいました。だから腕時計が壊れたりすると、喜んで修理を頼みにその時計屋に行くのです。「誰か時計が壊れた者はいないか。いたら俺が時計屋に行ってやる」と修理を募集する者や、わざわざ自分の時計を壊して修理を頼む者もいましたよ。

黒川 真面目な印象の師範の生徒の中にも、そういうおもしろい人もいたのですね。

桐生 なにしろみんな若かったからね。教室で勉強中でも校舎の窓の外を修学旅行の女学生が通ると、みんな外を気にしてちっとも授業に集中できない。先生も生徒の気持ちが分かるらしく、皆がそわそわしていてもあまり叱らなかったね。



ラーメンの出張販売

黒川 ラーメンを食べている写真がありますが、これは何ですか。こういうものを食べられる場所が、校内にあったのですか。ラーメン10銭、ワンタンメン20銭などと張り紙がしてありますが。

桐生 毎日でなく日を決めて、ラーメンや・汁粉や・靴修理などか店を開きました。でも私は学校の外の店の方がよいので、利用しませんでした。この店にも女性の従業員いはなくて男子ばかりでした。

黒川 学校外の店には自由に行けたのですか。

桐生 毎日の日課が終った後なら、自由に外出できました。飲食店もすし屋のような贅沢なところは禁止でしたが、普通のところは大丈夫でした。ただし決められた時刻までには帰らないといけませんでした。

黒川 その「決められた時刻」と言うのは何時なのですか。

桐生 夕食の時刻までには帰らなければなりませんでした。

黒川 最後にお尋ねしますが、師範学校の生活で一番うれしかったことはどんなことでしたか。

桐生 それは入学してから一年たって、二年生になり次の一年生が入学してきた時です。

黒川 なるほど下級生ができて嬉しかったのですね。

桐生 もちろんそれもありますが、それだけではありません。一年生の間は上級生の世話をいろいろしなければならず、それが大変なのです。上級生の布団の上げ下ろ

しや洗濯、靴磨きもしました。それだけならまだしも、上級生の中には悪いのが居て、お金のことで困らされました。



その頃の鎌倉駅

黒川 生 それはどういうことなのですか。

例えば寄宿舎では部屋ごとに生徒がお金を出し合って、新聞を購読します。どの新聞を採るかはお上級生が決めます。それはまあ良いのですが、お上級生によっては新聞代の分担金をなかなか出してくれないので、集金係の一年生が立て替えておくのですが、それをよいことになかなか払おうとしません。またお上級生の中にはお洒落な人がいて、制服の下に着るワイシャツを洗濯に出します。その洗濯代を立て替えて払っておくと、そのお金をなかなかくれない人もありました。そんな風なので、一年生のときのお上級生の世話はとても大変でした。



駅名表示の横書きは右から

だから最上級生が卒業し、新一年生が入ってくると「頭がもげて尻尾がついた」と言って喜びました。

黒川 生 最後に一つ伺いたいのですが、師範卒業時の最初の赴任校はどのようにして決まったのですか。当時は今のように横浜とか川崎とか相模原とか細かく分かれいなくて、県下全域が赴任のエリアだったと思いますが、赴任地を希望することは出来たのですか。

黒川 生 希望を出すことは出来ました。その希望は大体八分くらいは通ったと思います。ただ当時は都市と農村部と地域によって給料が違いましたし、優秀な者はどうしても都市部を希望してそちらに集まる傾向がありました。

黒川 生 先生の最初の赴任校は、どちらでしたか。

黒川 生 神奈川区の神橋尋常小学校です。尋常小学校というのは、義務教育の尋常科6年までの学校で、尋常科の上の高等科はない小学校です。高等科もある学校は、尋常高等小学校と言いました。

黒川 生 そうすると横浜の学校ですから、先生も成績優秀だったのですか。

黒川 生 いや、そう言うわけではありません。実は私は最終学年の5年生の時に肋膜炎を患い1学期間休学しました。幸い2,3学期には回復して修学旅行にも参加したのですが、1学期の教育実習に参加できなかったのが三月に皆と一緒に卒業出来なかったのです。しかし、2,3学期の勉強はちゃんとしていたので、次の学年の1学期に教育実習が終わった後に、学校当局の温情で特別に7月に卒業させてくれたのです。そのときに神橋小に赴任せよと言うことで赴任したので、私の希望ではありません。私の実家は二宮ですので、神橋まで通勤するのは大変でした。

黒川 生 今日は私たちの知らなかった昔の師範時代のお話を聞かせていただき、とても興味深く参考になりました。こういうお話は時代の移り変わりとともにどんどん消えていってしまうので、今日お話を伺えたのはとても良かったと思います。先生がその後、小学校からY校の定時制(当時は夜間部)に移られたのにも、いろいろな理由や事情がおありと思いますが、それらについては又の機会に伺えたらと思います。本日はお疲れのところ、長時間無理を言ってお話を伺いまして、本当に有難うございました。

